

2人の詩人

～日常の中から生まれた作品～

市村恵さん（20歳・宮下町1丁目）と三沢寛幸さん（22歳・中原町1丁目）の2人の詩が、NHKハート展で全国から集まったおよそ4,600編の中から、入選の50編に選ばれました。

2人は、日常生活の中で経験し、感じたことを詩につづりました。



作品の一部を割りばしのペンで書いてくれた三沢さん

「お父ちゃんはお母ちゃんになつた」。三沢さんの母・裕子さん（54歳）との会話で出てきた三沢さんのことばがきっかけ

となつて、この作品は出来ました。裕子さんは驚きました。こんなことばが出てくるとは思わなかったからです。実は、裕子さんの目は、三年ほど前から病気でよく見えません。そのため、父・武夫さん（59歳）が仕事から帰宅した後、買い物や料理などの家事をしています。裕子さんが、三沢さんになぜ、お父ちゃんがお母ちゃんになつたのかを尋ねました。そこで、作品中の「仕事から

帰ってきたから……」という一節が出てきたのでした。

三沢さんは、裕子さんと出

「お母ちゃんとお父ちゃんとぼく」
お母ちゃんの目が見えなくなつた。
ぼくのお父ちゃんは、
お母ちゃんになつた。
仕事から帰ってきたから、
買い物に行つて、
ごはんを作ってくれる。
そうじもしてくれる。
ぼくは、お母ちゃんと手をつないで歩く。
「車、来るよ。」
「曲がるよ。」
三人で行くスーパーでの買い物を楽しみます。

NHKハート展で入選した三沢さんの作品

六年前のハート展で、こどもの日のかしわもちを題材にした作品が入選をしています。今回、二回も入選するとは思わず、家族一同「まさかの入選」だったそうです。裕子さんは、三沢さんから出てくることばから「どんな詩が出来るか」期待をしています。日常のふとしたことば、それが三沢さんの詩の源になっています。



自分の作品を手にする市村さん

市村さんは、昨年に引き続き二年連続二回目のハート展入選です。昨年は、自分が描まえてきたコオロギを題材にしまし

で感心したことばを書き留めるようにしていました」と由美子さん。そんなことばの中から、市村さんは詩を作るようにな

た。今回は、祖母・まささん（80歳）との会話の中から生まれた作品です。母・由美子さん（48歳）が、この時の会話を書き留めていました。それを後日、市村さんが自分の会話の部分から、まささんへの感謝のことばをつづったものです。

「以前から、会話の中

「幸せ」
おばあちゃん
もしかして
おとうさんは
おばあちゃんから
生まれたの
ありがとねえ

NHKハート展で入選した市村さんの作品

広報川越が届くのを毎回来しみにしている、という市村さん。今回、自分の出ているこの記事を読んで、どんな感想を持つのでしょうか。そして、そこから新たな詩が生まれればいいな、と感じました。

り、今では三十編以上の詩が出来ました。

そして現在、今回入選した市村さんの詩「幸せ」に曲が付き、

NHKテレビ・ラジオの番組「みんなのうた」で放送されています。自分の作った詩に曲が付けられ、テレビやラジオで放送されていることに對して、「歌になつてうれしいな」と市村さんは、ほほえみました。曲は五月末まで放送される予定です。

まちのできごと

川越市の面積は109.16km²

109パレット

広げよう！ 子育ての輪

2月26日、総合保健センターで行われた「川越子育てフェスタ」。これは、昨年からはじまった「子育てアイデア会議」に参加した母親の皆さんが、子育ての輪が広がるようにと企画し開催したものです。子育てシンポジウムのほか、ミニコンサートやおもちゃ作り、親子クッキングなどたくさんの催し物が行われ、「子どもだけでなく、大人もいっしょに楽しめたのでとてもよかった」と参加者に好評でした。



白玉だんご、上手にできるかな？

浦和レッズの皆さんと……

浦和レッズの選手だった皆さんとサッカーを通じて交流する、「浦和レッズハートフルサッカー」が3月19日にオアシスで行われました。参加した皆さんは、体育館を駆け回り、額に汗を輝かせていました。休憩中も浦和レッズの皆さんとボールで遊んでいる姿が見られ、楽しいひとときを過ごしていました。



とっちにパスだ！



さあ、もっとスピードアップ！



子どもたちが持っているのが辻札、後ろにみこしが続きます

病気を防ぐために「ふせぎ」

3月20日、尾崎神社（笠幡）で、芳地戸（ほうしど）のふせぎ（市指定・無形民俗文化財）が行われました。享保6年（1721）に疫病が流行し、それが地区内に広がらないよう始まったといわれています。午前中に大人たちが境内でわらや竹を使って、みこしと辻札（つじふだ）を作ります。午後は、子どもたちが辻札を持ち、皆さんで尾崎神社を出発。3時間かけて、地区内の家々を歩いて回りました。



後輩から激励の花束

第一戦は快勝。「川越で試合ができてよかった。そして、勝ててよかったです」と試合後、節政さんはほっとした表情。チームはその後、ファイナル（決勝）へと勝ち上がり、三勝二敗で優勝に輝きました。

日、川越運動公園総合体育館で、上位四チームによるプレーオフセミファイナル（準決勝）が行われ、節政さんのチームも参加。初日の試合開始前、小学生のときに入っていた武蔵野ミニバスケットボールクラブで現在主将をしている佐野健太くんから、激励の花束を受け取りました。「後輩たちの前だけ意識せず、ふだんどおりの試合をしたい」と節政さん。気合いの入った表情で攻守に渡し活躍を見せ、場内を沸かせていました。

平成十年の世界選手権で日本代表として活躍をした節政さんは、バスケットボールJBLスーパーリーグの東芝ブレイブサンダースに所属しています。



ゴール目指してドリブルで相手を交わす

節政貴弘さん（32歳）
せつまさたかひろ

川越人
かえいせ
びと
12